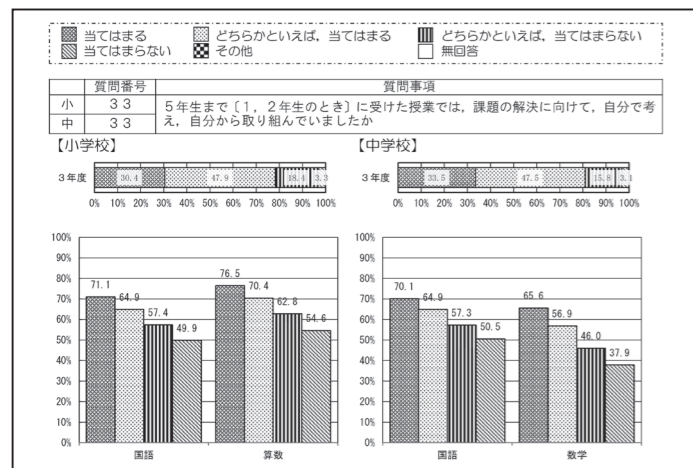


調査結果等の集計・分析・提供

集計・分析

- ◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

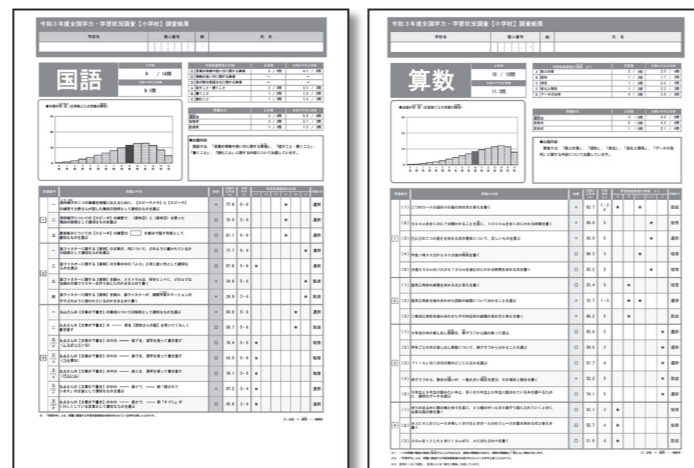
▼公表する調査結果の例



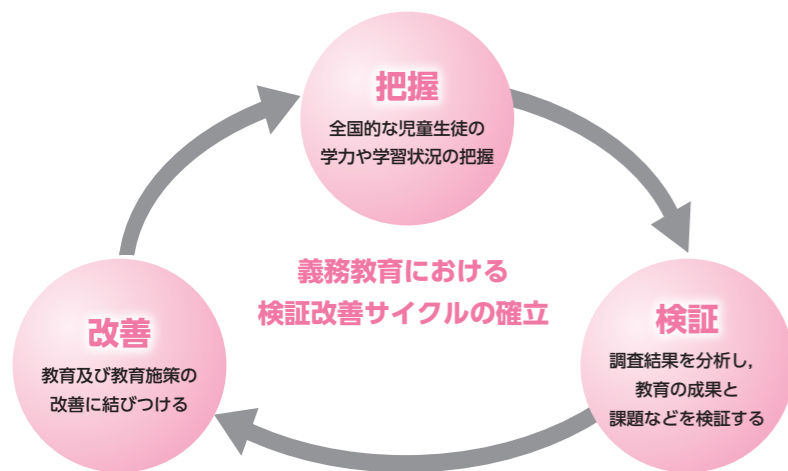
提供

- ◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供
 - ・児童生徒の正答数分布図
 - ・設問別正答率・無解答率、類型別解答状況
 - ・質問紙調査の結果
 - ・各児童生徒に提供する「個人票」 など

▼「個人票」のイメージ



調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進
学校	個々の児童生徒の課題に応じた教育指導の改善に向けた取組を推進

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実等に取り組む際に役立てることができるように作成したものです。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに、調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実を図る際に役立てることができるように作成したものです。各問題について、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実を図る際のポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において、今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会、学校等の教育活動や、教育施策の一層の改善を図るため、大学等の研究機関の専門的な知見を活用し、高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

(分析例)

- ・家庭の社会的背景と学力の関係に関する調査研究
- ・良好な結果を示した教育委員会・学校における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究



令和4年度

全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等(教育委員会、学校法人等)の協力を得て実施するものです。

調査実施日: 令和4年4月19日(火)

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校 (児童質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。)

1時限目	2時限目	3時限目	
国語(45分)	算数(45分)	理科(45分)	児童質問紙(20~40分程度)

◎中学校 (生徒質問紙は、3時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。)

1時限目	2時限目	3時限目	
国語(50分)	数学(50分)	理科(50分)	生徒質問紙(20~45分程度)

※児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、端末を活用したオンラインによる回答方式で実施する(実施期間は、4月19日(火)~4月28日(木))。

文部科学省 HP

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/

国立教育政策研究所 HP

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

全国学力・学習状況調査

検索

問題例：過去の全国学力・学習状況調査より

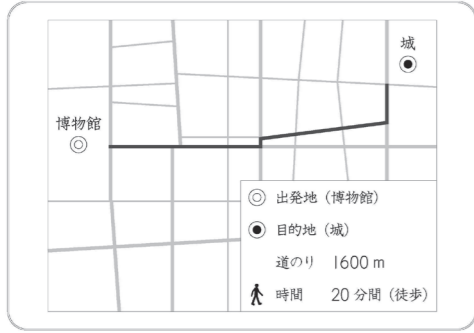
全問題については、国立教育政策研究所 HP をご参照ください。

小学校・算数
(令和3年度)

日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること(地域めぐり)

1

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで調べました。



- たける: 博物館から城までは1600mで、20分かかります。
- ほのか: 私たちが歩く速さと同じくらいの速さなのでしょうか。
- しおり: 私たちは、500mを歩くのに7分間かかりましたよ。

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

道のりと時間		
	道のり (m)	時間 (分)
㊦ インターネット	1600	20
㊧ たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

- ㊦ インターネット $1600 \div 20 = 80$
- ㊧ たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4 \dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊦のほうが速い。
- 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㊧のほうが速い。
- 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊦のほうが速い。
- 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㊧のほうが速い。

●出題の趣旨
速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかをみる。

●正答
1

中学校・国語
(令和3年度)

話し合いをする(地域清掃活動)

条件1 「話し合いの趣旨」の①から⑥までのやりとりを踏まえ、そのよそよそしについて発言するよそよそしを減らすこと。

条件2 条件1のように考えた理由を具体的に説明し、そのよそよそしを減らすこと。

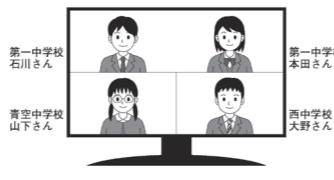
話し合いの趣旨

- 各校の取り組みについて、質疑応答に入ります。今日は、原田として、一つの質問に対する答えが帰って来たら、次の質問をするようにしてください。地域清掃活動を活性化させるために、他校に聞きたいことはありますか。
- 第一中学校に質問があります。担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化しましたか。
- 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることにより、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の男と女という協力して取り組むことができるようになりました。
- 一人一人が責任をもって活動するようになったことですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。
- はい、ありがとうございます。青空中学校では、生徒だけで清掃活動を行っていますが、今後は地域の方と合同で行うことも検討してみたいと思います。そこで、もう少し質問したいことがあります。第一中学校では、地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてください。
- 西中学校でも、地域の方との合同の清掃活動を考えたいと思います。また、実施回数も見直そうと思うのですが、回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方が変わったのかを、青空中学校に質問したいです。

梅山市中学校代表者会議 資料

- 日時 5月20日(木) 15:50~16:30
- 参加者 第一中学校:本田(司会)、石川
青空中学校:山下
西中学校:大野
- 目的 各校での地域清掃活動を活性化するために、昨年行った取り組みの工夫について情報交換を行う。
- 会議の流れ
 - (1) 会議の目的の説明 (3分)
 - (2) 各校の取り組みの報告 (各校3分)
 - (3) 質疑応答 (25分)
 - (4) まとめ (3分)
- 各校の取り組み

学校名	昨年度行った工夫
第一中	担当する清掃場所を細かく分ける。
青空中	実施回数を年1回から3回に増やす。
西中	実施時期を5月から8月に変える。



1 梅山市の中学校では、各校の代表が参加し、地域清掃活動についてテレプロンプターを用いて話し合いを行っています。この会議の司会者は、第一中学校の本田さんです。次は、各校の代表に配られた「資料1」と「資料2」にある「話し合いの趣旨」の①から⑥は、発言の順序を表しています。この順序を踏まえ、話し合いの趣旨の①から⑥は、発言の順序を表しています。

●出題の趣旨
話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。

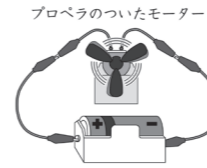
●正答例
・本田さん
本田さんが、次の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山下さんの質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからだ。

小学校・理科
(平成30年度)

実験結果の見通しを伴った解決の方向性の構想、より妥当な考えへの改善(電流の向きと大きさ)

3

ひろしさんたちは、下の図の回路を流れる電気の流れ方について、予想したことを話し合いました。



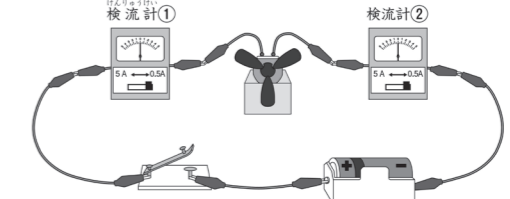
ひろしさん: かん電池の+極からモーターを通過して-極へ電気が流れていて、モーターを通る前とあとの電気の量は、同じだと思うよ。

やす子さん: かん電池の+極からモーターを通過して-極へ電気が流れていて、モーターからもどってくるときは、電気の量は、減っていると思うよ。

しんやさん: かん電池の+極と-極からモーターに向かって電気が流れていて、それぞれの電気の量は、同じだと思うよ。

あやかさん: かん電池の+極から電気が流れていて、モーターを通ったあとは、電気の量は、なくなっていると思うよ。

ひろしさんたちは、予想を確かめるために、2つの検流計を使って、下の図の回路で実験することにしました。



(2) やす子さんの予想が正しければ、検流計①の針が右にふれて3の目盛りを指したときに、検流計②の針はどのような向きと大きさで考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 検流計①: 針の向き: 検流計①と逆。針の目盛り: 検流計①と同じ。
- 検流計①: 針の向き: 検流計①と同じ。針の目盛り: 検流計①とちがう。
- 検流計①: 針の向き: 検流計①と逆。針の目盛り: 検流計①とちがう。
- 検流計①: 針の向き: 検流計①と同じ。針の目盛り: 検流計①と同じ。

●出題の趣旨
電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかどうかをみる。

●正答
2

中学校・理科
(平成30年度)

テレプロンプターを科学的に探究する(物理的領域)

1 演説の際に使うことがあるテレプロンプターについて、理科の授業で科学的に探究しました。(1)と(2)の両問に答えなさい。

テレプロンプターのモデルをつくる場面

先生: 光の反射を利用したテレプロンプターは、話し手からは文字が見えて、聞き手からは文字が見えない機器です。タブレット型のコンピュータと半透明の板を使って、テレプロンプターのモデルをつくり、光の進み方について学習していきます。

生徒: 図1のようにすると、半透明の板に「あ」を表示することができました。

(1) 図1のように「あ」を半透明な板に表示したとき、タブレット型のコンピュータの画面として適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

ア: あ (手前)
イ: あ (手前)
ウ: あ (手前)
エ: あ (手前)

光の道筋を考える場面

<考え1>
半透明の板を使っているので、光の道筋はこの図のようになると考えます。

<考え2>
テレプロンプターは、話し手からは文字が見えて、聞き手からは文字が見えないので、光の道筋は X の図のようになると考えます。

(2) X に適するものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

ア: あ (手前)
イ: あ (手前)
ウ: あ (手前)
エ: あ (手前)

●出題の趣旨
(1) 光の反射を利用したテレプロンプターのモデルを作り、半透明の板に反射して見える像に対して投影する像を考える場面において、光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できるかどうかをみる。
(2) 光の直進と反射についての知識・技能及び「テレプロンプターは、話し手からは文字が見えて、聞き手からは文字が見えない」という情報を活用して、テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができるかどうかをみる。

●正答
(1) イ
(2) イ